

はじめに



食は命の源であり、健全な食生活は人に生きる喜びや楽しみを与え、健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与するものであります。また、胎内市では豊かな自然の中で様々な農産物が生産され、伝統的な食文化が育まれてきました。

市では、平成 23 年度に「胎内市食育推進計画」を策定し、平成 28 年度に第 2 次計画として更新し、関係者が連携して取り組んでまいりました。第 2 次計画策定から 5 年が経過し、その取組によって、小中学生の朝食摂取率の増加、食事のあいさつができる子どもの割合の増加、食育の認知度の増加などに対して、一定の効果が得られました。しかし、依然として、若い世代の朝食摂取率の低さ、園児・小学生・中学生・成人期の肥満者の割合が多いことなど健康面での課題などが見受けられます。また、健康面だけではなく、胎内の豊かな食を推進していくことや、食品ロスを少なくしていくことにも引き続き取り組んでいく必要があります。

新型コロナウイルス感染症の流行により、調理や会食を伴う食育活動は大きな制限を受け、予定していた活動は中止せざるを得ないものもありました。しかし、できないからやらないという考え方ではなく、新たな方法を模索しながら市民の皆様と共に食育の推進に取り組んでいきたいと考えております。

このような社会情勢や国や県の計画の方向性を踏まえ、当市でも新たな課題を整理して、ここに第 3 次胎内市食育推進計画を策定いたしました。基本理念や大目標は前計画から継続した取組を推進し、様々な関係者がそれぞれの特性を活かしながら、多様に連携・協働し実効性を高めつつ、市民が食育を実践しやすい環境づくりにも取り組むことで、目指す姿に向かって施策を展開してまいります。

結びに本計画の策定に際し、食に関するアンケートにご協力いただいた市民の皆様、計画策定に関わっていただいた皆様、そして計画を審議いただいた「胎内市食育推進ネットワーク会議」「胎内市健康づくり推進協議会」の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、本計画の推進に向けて皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和 4 年 3 月

胎内市長 井 畑 明 彦